

APR.'90

昭和41年10月20日 第3種郵便物認可 第18巻287号 平成2年4月1日 毎月1回発行

4

翼

TSUBASA NO.287

特集

春の

リクルート大作戦!

緊急特集!

フォトコンテスト優秀作品シリーズ

「夕映」 高橋 浩(愛媛県)

JASがダッシュ400発注! ●80年代、空は安全だったか!?

■尾翼マーキング伝説 ■パソコンで操縦にチャレンジ! 第5弾

アエロフロートの素顔

第7回 SUの国際ルート研究・その1

「世界最大の航空会社」といわれるソ連のアエロフロート(SU)。日本でもなじみがあるキャリアながらその実態はまだ未知のペールにつつまれている。グラスノスチ(情報公開)がすすむなか、ソ連の民間航空事情はどんなようすか、さまざまな角度から考察してみることにした。



構成/酒井元実

▼成田からSU機で直行できる都市

目的地	所要時間
ロンドン (LHR)	16時間45分
パリ (CDG)	16時間40分
アムステルダム (AMS)	16時間15分
コペンハーゲン (CPH)	14時間35分
フランクフルト (FRA)	16時間05分
ローマ (FCO)	16時間55分

※全便モスクワ経由(SVO)。所要時間はトランジットも含む。

世界最大の路線網を持つといわれるアエロフロートの国際線。オセアニアへの路線こそないものの、地球上を網の目のようなネットワークで結んでいる。

今回から3回にわたり、アエロフロートの国際線が乗り入れている都市をざっと紹介してみることにした。ソ連との国交がある国へは、すべて路線があるといっている。いほどで、乗り入れ国数は98カ国に上っている。もともと最近では、国交がないものの経済的な結び付きが強くなりつつある韓国への路線も引かれるなど、SUの国際線網も新たな傾向が出てきている。

SUのネットワークは、乗り入れ国数が100近くに及ぶといつたように、充実した路線網を誇っている。しかし、路線によっては便数が極端に少ない区間もある。日本・モスクワ線などのように、デイリーで1・2便飛んでいるところは少なく、ヨーロッパの大都市向けは平均して1日1便程度の運航、地方都市向けには週2・4便の運航ということも少なくない。

アエロフロートの国際路線は何と96カ国にも乗り入れる巨大ネットワーク

一部のアフリカ線のように、2週間に1便というところもある。便数が少なくとも、機材がジャンボ級のワイドボディが投入されているならまだしも、長距離線には定員100人程度のIL6が飛

15カ所あるソ連の国際空港。地方発着の国際線も拡充してきている

ソ連の国際線発着空港は全部で15カ所ある。

運航の中心はもちろんモスクワのシェレメチエボ第2空港(SVO)で、SUの国際線の90%以上をさばっている。ちなみにソ連に乗り入れてくる外国キャリアは、ほとんどがSVOに入ってくる。最近ではシベリア上空通過便が増えたので、西側のワイドボディ機がSVOのスポットを賑わすこともかつてはほとんどなかった。

▼ソ連の国際空港と目的地

モスクワ・シェレメチエボ第2 (SVO)	世界各地
レニングラード・プルコボ (LED)	東西ヨーロッパ
タシケント (TAS)	東欧・東南アジア
エレバン・ウエスト (EVN)	東欧・中近東
キエフ・ボリスポリ (IEV)	東西ヨーロッパ・西アジア
ソチ・アドラー (AER)	東欧
ミンスク (MSQ)	東欧
トビリシ (TBS)	東欧
ルフォフ (LWO)	東欧
ビルニウス (VNO)	東欧
ミンボディ (MRV)	東欧
アルマアタ (ALA)	中国
ノシビルスク (OVB)	モンゴル
イルクーツク (IKT)	モンゴル
ハバロフスク (KHV)	中国、日本、韓国、北朝鮮、ベトナム

SVOのほか、ソ連の主要国際空港には次のようなところがある。ソ連第2の都市・レニングラードのプルコボ第1空港(LED)からは、東西ヨーロッパ行きの国際線が数多く運航されている。また、中央アジア・ウズベク共和国の首都タシケント空港(TAS)には、東南アジア行きのほとんど全便が給油のため立ち寄っていく。

日本への路線もあるハバロフスク空港(KHV)は、ソ連のアジア部分としては最大の国際空港で、シベリア東部の旅客・貨物の集散地として重要な位置を占めている。KHVからの国際線は、現在5カ国に向け飛んでいる。

そのほかの地方空港からの路線拡充もいちじるしい。洪水の被害からたちなごったイルクーツク空港からは、モンゴル・ウランバ

んでいるというのが現状である。週2便のモスクワ・ニューヨーク線には、ある程度の乗客が見込めるとあってワイドボディのILWが使われているが、「足の長さ」の関係で途中2回の給油がある。いずれにせよ、IL96などの長距離ワイドボディ機の実用化が待たれるところだ。



↑モスクワのシェレメチエボ空港第2ターミナル。
↓東南アジア線の中継点タシケント空港。



トル行きが飛んでいる。また、中央アジアのアルマアタと中国シルクロードの大都市・ウルムチを結ぶ路線は、中ソ間の新たなルートとして期待されている。

極東・東アジア路線の超目玉は何と いってもモスクワ―ソウル線だ

■東アジア・極東路線

東アジア・極東路線は、大別してモスクワからの直行便と、ソ連の「極東」にあるハバロフスクからの短距離便とに分けられよう。

①日本線
日本へは、成田―モスクワの1L6による直行便が1日2便の割合で飛んでいる。この便は、東アジアとヨーロッパを結ぶ超特急便としてSUの目玉商品ともいえる。一方、ハバロフスクからは新潟へTU5の週2便の運航がある。ビジネスマンには、「かくれたヨーロッパ行き特急ルート」として人気が高い。

②中国線

中国線は、長い間モスクワ―北京の直行便によるサービスのみであった。ところが、昨年になってハバロフスク―ハルビン線、また

さて、とりあえず今回は広範なSUの国際線のうち、東アジア・極東、東南アジア、南西アジアへの路線についてみてみよう。

③北朝鮮線

北朝鮮へは首都のピョンヤンへ、モスクワからの直行便と、ハバロフスクからの便が結んでいる。

④韓国線

今年3月に開設される、「おどろきの新路線」がこのソ連―韓国線である。当初は、モスクワ―ソウル間の直行便を週に2便、ハバロフスク―ソウルを週に1便の予定で運航される（詳細はコラム参照）

⑤モンゴル線

モンゴルへは首都のウランバートルへ、モスクワ―ノボシビルスク―イルクーツク―ウランバートルのルートで週3便運航されている。ノンストップ便でないのは機材がTU5のため。

■東南アジア・南西アジア路線

東南アジア線は、ちょうどヨーロッパからの南回り路線のようなルートを取っている。大別して、インドのデリーかボンベイを経由してくるルートと、UAEのドバイかアブダビを経由してくるルートに分けられる。

▼SU機の乗り入れ地

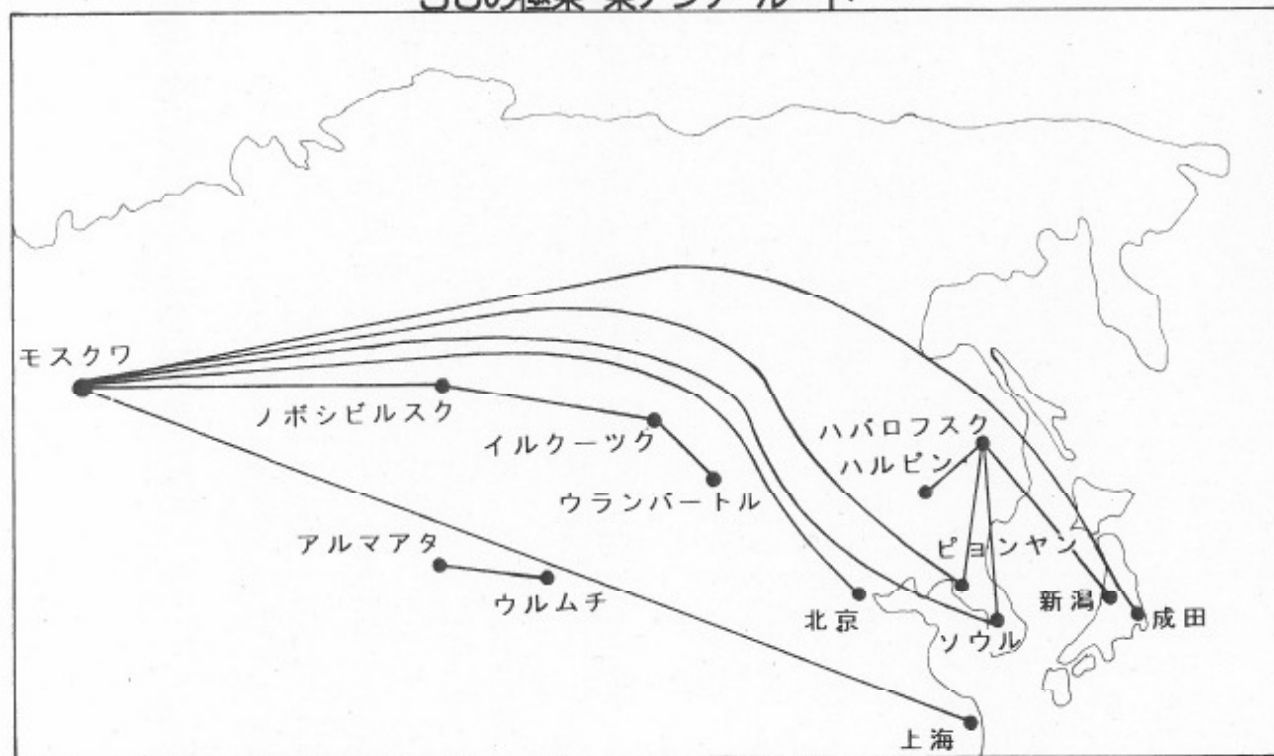
【東アジア・極東】

日本/東京(成田)
新潟
中国/北京
上海
ハルビン
ウルムチ
北朝鮮/平壤
韓国/ソウル
モンゴル/ウランバートル

【東南アジア・南アジア】

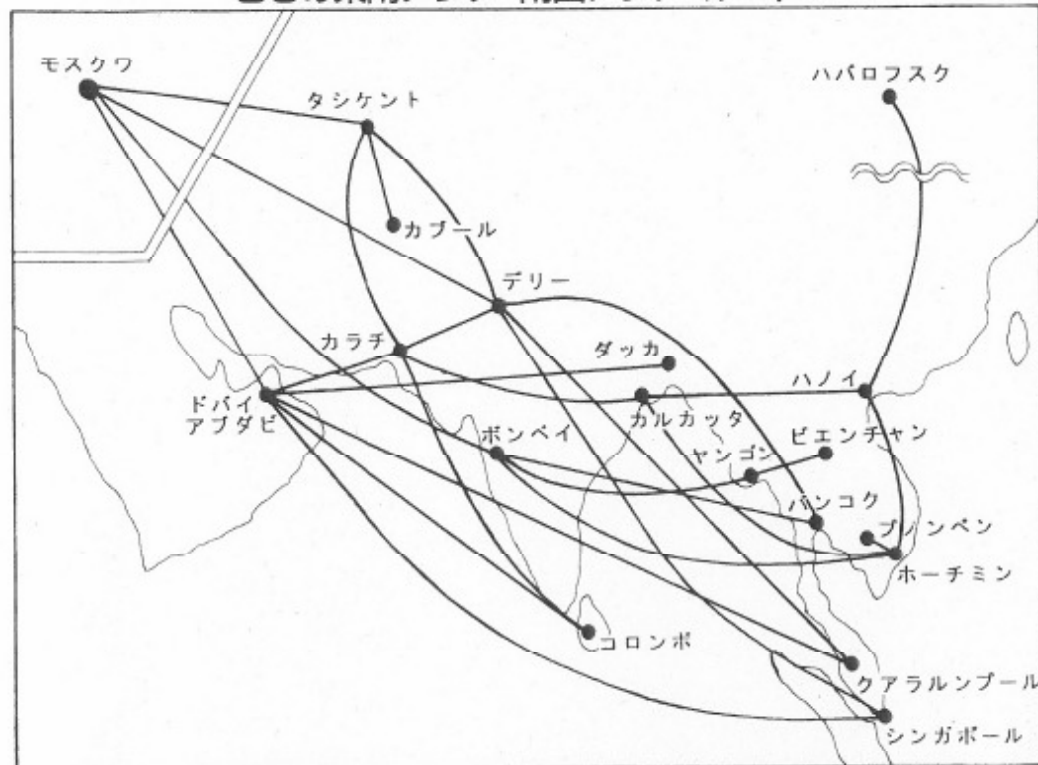
シンガポール
マレーシア/クアラルンプール
ベトナム/ホーチミン
インドネシア/ジャカルタ
ラオス/ビエンチャン
カンボジア/プノンペン
ミャンマー/ヤンゴン
タイ/バンコク
バングラデシュ/ダッカ
インド/デリー
パキスタン/カラチ
アフガン/カブール

SUの極東・東アジア・ルート



トに分けられる。
①マレーシア・シンガポール線
クアラルンプールとシンガポールへは、モスクワからドバイを経由して飛んでくる路線と、デリーを経由してくる路線とがある。な

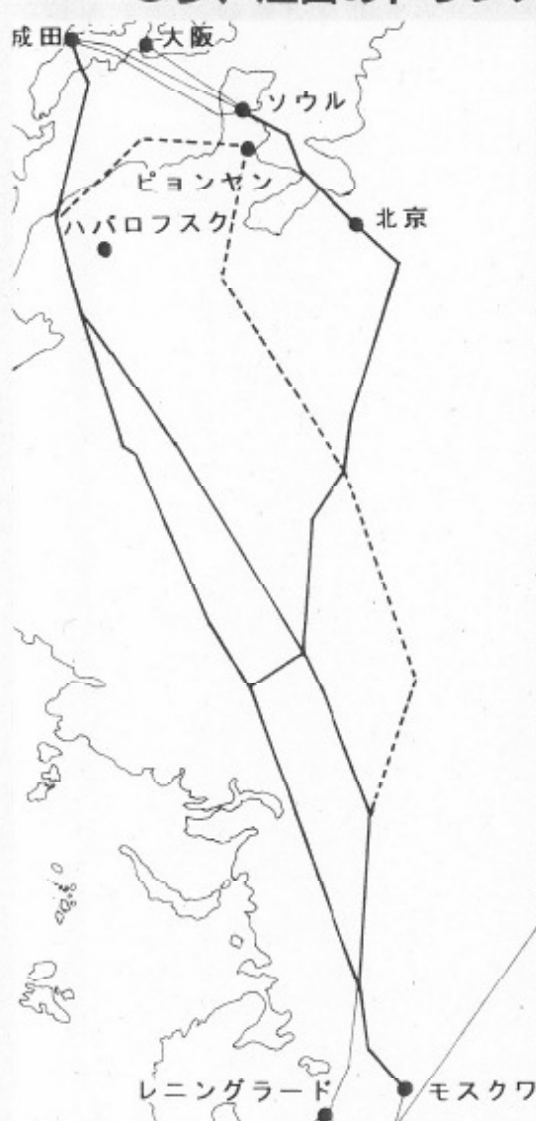
SUの東南アジア・南西アジア・ルート



お、KUL行きとSIN行きは別設定で、KUL経由SIN行きというわけではない。
②インドシナ線
インドシナのベトナム、カンボジアはソ連と緊密な関係を持っている。現在は、ハノイとホーチミンへ、毎日のようにモスクワからインド経由で飛んできている。プノンペンへはホーチミンから官腸

線のような形で運航されている。モスクワ発とは別に、ハバロフスクからのベトナム行きが不定期ながら運航されている。
③ラオス・ミャンマ（ビルマ）線
モスクワからボンベイ経由でヤンゴンとビエンチャンに乗り入れている。
④タイ線
モスクワからタシケント・デリ

●今、注目のトランス・シベリア・ルート



日欧間の直行便が全盛のいま、シベリア上空通過のルートはますます重要度を増してきている。

シベリアルートのうち、外国キャリアに開放されている航空路はふたつで、どちらもSVOとKHVの北方を最短距離で結んでいる。実際には、SUの国内線が飛ぶルートも加えれば、さらにいくつかの航空路もある。しかし現在確認したところでは、SUの資料に掲載されている、モンゴル行きと北朝鮮行きルートが明らかになったに過ぎない。

むしろユニークなのは、ソウルからのモスクワ行きルートであろう。現在、ソウルー北京間を飛ぶキャリアは全くないし、中国、ソ連、北朝鮮、韓国4か国の関係からみれば、飛行ルートもソウルから新潟方向へ出て、北上後東京発のシベリアルートに乗って行くと考えられたものだった。ところが実際には、ソウルから北京方向へ行き、そこから最短距離でモスクワに向かうということで関係諸国との調整を見た。しかし残念なことに、Korean Airのソ連線は認可されず、見返りとしてソウルーヨーロッパ線のうち週1便のみシベリアルート使用が認められただけであった。

1 経由でバンコクまでの路線が延びている。バンコクにはSUだけでなく、IFやLOなどの東欧キヤリヤーが乗り入れている。
⑤バングラデシュ線
モスクワからのダッカ行きは、ドバイ経由で週1便のみの運航。
⑥インド線
インドへのSU便は給油のために立ち寄っている程度に過ぎない。一応、乗り入れ地点はボンベイ、カルカッタ、デリーの3カ所があるが、実際にはデリーでのみ乗り

降りができる。デリーからはモスクワ、タシケント、カラチ、バンコク、シンガポール、クアラルンプールへの路線が延びている。
⑦スリランカ線
モスクワよりドバイ経由の便とタシケント、カラチ経由の便がコロンボに乗り入れている。
⑧パキスタン線
SU便はほとんどがテクニカルストップでカラチに立ち寄る程度。
⑨アフガニスタン線
モスクワ、タシケントからのカ

ブル行きが乗り入れてくる。昨年からは民間人の利用も増えてきたにちがいない。
⑩UAE線
ドバイとアブダビに、SUの東南アジア行きが立ち寄って行く。テクニカルストップのようだが、ストップオーバーも可能である。